

まちづくり新聞 40号

～バリアフリーアピール～

☆アピールとは☆

地域の皆さんや行政が参加して、より良いまちづくりへの想いと、取材した店舗や施設のアピールを込めたものです。

記号のご案内



自動ドア



エレベーター



車いす可能
エレベーター



エスカレーター



車いす可能
エスカレーター



駐車場



スロープ



段差



だれでもトイレ



手すり付き男子トイレ

根岸公園誰でもトイレ



☆内 容☆ 誰でもトイレ

・所 在 地 台東区根岸 4-16-29

・根岸公園内洋式トイレ 1 基

下はトイレ内部です

日中なので明るいです。室内の電気は点いています。



⇐このぐらいの広さがあればユニバーサルシートを設置してほしかったです。一度誰でもトイレは、どうあるべきかを、検証して頂きたいです。

下は公園の遊具です。



今号は特集と致しまして、台東区根岸の誰でもトイレをご紹介します。根岸は上野の山の北の陰に位置し、西は JR 山手線、北は荒川区東日暮里・南千住。東は台東区三ノ輪・竜泉・下谷の三地域に囲まれた三角形の町域を持っています、関東大震災や第二次世界大戦で罹災しなかった市街地も含まれ、昔からの町並み・建物が残っている場所もあるそうです。町名の根岸は、「上野

根岸と言えば、あの昭和の爆笑王と言われた、初代林家三平(1924 年～1980 年)の自宅がありました。今現在その建物を「三平堂」として開放しています。

初代林家三平と言えば、昭和の爆笑王として一世を風靡した落語家です。初代林家三平は、昭和 30 年代からテレビやラジオで人気者。寄せ番組でも独特な芸風は常に三平さんご自身の、ち密な計算で作ったそうです。



(右上の写真は初代林家三平です。)

そんな三平さんは、父親の高座名の林家正蔵を継ぎたかったそうですが、願い叶わず、56年の生涯を閉じてしまいました。しかしその願いは、九代目林家正蔵として、三平さんの長男が継ぎ、ご自身の高座名三平は、次男へと引き継がれました。



昔っから私は落語が好きでした。私の好きな古典落語に「藪入り(やぶいり)」という作品があります。(藪入りとは一日だけ奉公先から休暇をもらえること。夏は旧暦のお盆にあたる七月十五日。冬は旧暦の小正月にあたる一月十五日)内容としては7つで奉公に出した息子が奉公先から、冬の藪入りで帰って来た息子。確か5年ぶりだったと思うのですが、両親に歓迎され、「ご飯の前に銭湯へ行ってさっぱりしてこい」と言われ、銭湯へ向かいました。気持ちよく息子を銭湯へ送り出し

た、その後母親が、藪入りで帰ってきた息子の荷物に、たくさんのお金を見つけてしまいました。それが原因でしばらくして銭湯から、帰ってきた息子は父親に一喝されてしまいます。さあ、父親の怒りの原因は？ここから親子の情を描いた下げになって行くわけです。そんな人情噺を今の正蔵さんは、ネタとして演じているのか定かではありませんが、父親の三平さんが夢だった古典落語家になったのは立派ですね。

防災広場「根岸の里」1 回

☆内 容☆誰でもトイレ1基一般トイレ。

・所 在 地台東区根岸 3-12



言問い通りの裏通りに、「花見せんべい」という昔ながらのお煎餅屋さんがあり、その通りをまっすぐ行くと、「防災広場根岸の里」という建物があります。建物の下が、男性用と女性用トイレ、そして誰でもトイレになっています。広く、明るい清潔的です。残念ながら、ユニバーサルシートはありません。





台東区立防災広場 根岸の里は消火活動時に消防車が通りやすいよう 2005(平成 17)年度に整備された公園です。普段は公園として開放されています。園内は、防災広場を中心に、かまどベンチ、洗い場、深井戸、防災用トイレ、ソーラー照明灯など各種防災施設が備えられており、防災広場の地下には耐震型防火水槽を設置しています。公園としては、じゃぶじゃぶ池やビオトープなども備えており区民の憩いの場として親しまれています。左側の写真は防災広場根岸の里の入り口です。

右の写真は根岸の里防災広場の根岸地区避難所マップです。

今年もじゃぶじゃぶ池は例年通り開始します



「私が体験したバリアフリーの問題点」

青木 藤夫

私が最近、週 2 回通うようになった整骨院は、入口に 2 段の段差があります。そういう問題点はあるけど、スタッフさんが段差の昇り降りを親切に手伝ってくれるし、マッサージを丁寧に気持ちよくやってくれるので、私はその整骨院のことが気に入っています。

それから、以前通っていた床屋は、入口が狭くて段差もあったので、出入りする時に店員さんが手伝ってくれましたが、車いすに座って髪を切ったに、頭を洗うときは床屋の椅子に移乗しなくてはいけなかったので大変でした。他にも、北千住のデパートの優先エレベーターに健常者がいっぱい乗っていて私が乗れなかったことが時々あります。さらに、亀有のショッピングモールで、多目的トイレが空くのを待っていたら、中から中学生くらいの健常者の女の子たちだったこともあります。「なぜそういう人がそこを使うかな」と私は疑問におもいます。

そういう訳で、街に出ると色々な問題点を見ることが多いです。



尚、上の写真はイメージです。

日暮里駅前の「又一順(ユーイシュン)」という中華料理店は、私のオススメです。皆さんも行って見て下さい。電話で予約してから行くと良いと思います。



／ 最 後 ／ に ／

ご存知の方が多いかと思いますが、今年、令和8年3月この自立生活センターたいとうの創設者であり、代表の鶴岡和代さんがお亡くなりになりました。私事ですが、鶴岡さんは以前から、「台東区身障児者を守る父母の会」でお会いしましたが、鶴岡さんも私もお互いの、顔と名前ぐらいしか知りませんでした。その後ボランティアサークルの活動が多くなり、私も入っていました、「ぽっぽの会」や「ユニークダンス同好会」に鶴岡さんも入っていて、特に同同好会では役員も務められていました。ダンスの講習が終わる時、手動車椅子に乗っている私の所まで歩いて来てくれて、次回のサークルの出欠と送迎の、聞きに来てくれました。そう、その頃の鶴岡さんは自力で歩けたのです。それから障がいが進んできて、入居施設に入らざるをえなくなりましたが、それから間もなくこの台東区に帰ってこられて自立されました。その後も鶴岡さんは、自立のためにいろいろ積極的に活動をし、一緒にやろうとお誘いして戴いたのですが正直言って私は、鶴岡さんの活動に賛同できずに、何度も鶴岡さんを結果的には裏切ってしまいました。ただ最終的にはこの自立生活センターたいとうを立ち上げてから私もまちづくり新聞担当として携わらせていただいています。この新聞は不定期ですが、地道に発行させていただいています。サブタイトルに～バリアフリーアピール～と付けてこの新聞で40号になりますが、このバリアフリーフリーアピールのアピールは、ハード面のバリアフリーだけじゃなく、『ソフト面のバリアフリー』を意味しています。ですから数年前鶴岡さんが、地域に戻ってきてなさった自立生活は、「ソフト面」心のバリアフリーを切り開いたと言っていいでしょう。最後に自立生活センターたいとうで私が作っています「まちづくり新聞38号」で、鶴岡さんが

歌舞伎を見に行った時に、入った浅草公会堂の感想を書いて頂きましたので、ご紹介させていただきます。



CIL たいとう 活動スタッフが交代でバリアフリー
について思いを語るページです。

今回は自立生活センターたいとう理事長鶴岡和代さんにバリアフリーについて記事を書いて頂きました。

浅草公会堂

リニューアルオープン！

皆さんこんにちは。自立生活センターたいとうを立ち上げた時に長澤さんと一緒に歩んできた鶴岡です。今日は、浅草公会堂についてお伝えしたいと思います。1977 年公会堂が開館し、R4 年 1/4 にリニューアルしました。建物自体は、綺麗になりました。座席のところも車いす席が見やすくなりました。歌舞伎とかコンサートなど観に行くことが多いので、嬉しく思っています。現在の車いす席は、ステージ向かって右側は、前から 5 番目でほとんどフラットです。ステージ左側は、車いす席が、前から 4 番目で出入りもしやすい位置にあります。リニューアル前は、車いす席は、12 番目のかなりスロープ上になった



ような所でした。怖い思いをしたこともあります。新春歌舞伎で若手俳優が、賑やかに華やかに歌舞伎を楽しませてくれるので、良かったなと思って嬉しく思っています。ただ、エレベーターが1台しかないので、客席に行くには、そのエレベーターを使うしかならないため、なかなか順番が回ってきません。もう一台エレベーターがあったら良いのになと思っています。



**私の新聞にご賛同、応援して頂ける方はご寄付金 1,000 円(年間1回程度)を
長澤まで宜しくお願い致します。**

また、特定非営利活動法人自立生活センターたいとうの活動にご賛同いただける方、賛助会員としてご支援をお願いしております。

正会員	年会費	5,000円
賛助会員	年会費 個人会員一口	3,000円
団体会員一口		10,000円